

## 悪魔の反-教会(チャート提供:チャールズ・ジョンソン博士)<https://ichthys.com/ANTI-CHURCH.pdf>

時代	特徴	当時の立場	権威の主張	標的としての弱点	具体的な攻撃
<b><u>エペソ:「転換期」(70年9月~80年9月=12年間)における反-教会の状況</u></b>					
<u>エペソ</u>	未信者が真の教会に潜入しようとした初期の試み [失敗]	真の教会から排斥される	「自分たちは使徒だと言う」、「ニコライ派」[多数派こそが権威であり、聖書ではないと言う]。	みことばの研究に対するエペソ人の無頓着な態度	[エペソ人の弱点である]自由主義が正当化され、聖書の真理を攻撃される。
<b><u>スミルナ:「迫害の時代」(82年~442年=360年)における反-教会の地位</u></b>					
<u>スミルナ</u>	真の教会を破壊しようとする異教徒たち	真の教会とは別に、国教として設立された	彼らは真の正当な宗教であると主張する["(偽って)自分たちは「ユダヤ人」であると言う]。	なし。スミルナの信者たちは、殉教するまで耐えることによつて、疑う余地のない信仰を証明した。	世俗的な手段がない(金もない、影響力もない、権力もない)--これらの「弱さ」は、世間の目から見た場合のみ。
<b><u>ペルガモ:「迎合の時代」(442年~802年=360年)における反-教会の地位</u></b>					
<u>ペルガモ</u>	バラムとバラクの陰謀のよ うに、誘惑と馴れ合いに よつて、世俗主義と異教 という形の悪が教会に影 響を及ぼし始めた。	教会に潜入	「ニコライ派の教え」を堅持する者たちが、教会内に存在する。	世俗的な領域で力を増すと、目に見える教会は「<多様性の>包括」の誤謬と中央集権の必要性の両方に対して脆弱になり、悪の侵入への道を開くことになる。	世俗的な安全への願望に基づき、世俗的な権力を獲得するために悪と妥協することは許されるという誤った思い込み。

時代	特徴	当時の立場	権威の主張	標的としての弱点	具体的な攻撃
<b><u>テアティラ:「妥協の時代」における反-教会の地位(802年~1162年=360年)</u></b>					
<b><u>テアティラ</u></b>	教会に定着してしまった悪は、目に見える教会の指導者たち[「イゼベル」、娼婦、彼らの「子供たち」の代表]の支配権を得る。	世俗、また異教の要素が教会の中で優勢的な立場を取るようになる。[彼女と「淫行する者」と彼らの「子供たち」によって支持される「イゼベル」]	これらの要素は、実際には嘘(すなわち「サタンのもつ”)である「深いもの」を「教える」優れた権威の知識を偽って主張する。	「イゼベル」とその信奉者たちは、目に見える教会の中で、秘密の教義、精巧な儀式、見せかけの魅力に弱い人々を餌食している	このようなカルト的な活動を通じて、まだ真の信仰と実践を守っている人々に影響を及ぼす[「偶像のいけにえの食物を食べ、性的な行為にふけること」]。

**サルデイス:「腐敗の時代」における反-教会のステータス1162年から1522年まで=360年)**

<b><u>サルデイス</u></b>	言及された特定のグループはない=体は全体的に崩壊寸前の状態で、個々のメンバーにおいてのみ生気が認められる。	悪という癌が元々健康であった体に完全に侵入し支配する。	偽りと悪が教会の組織の職務と権威を略奪している。	真の信者が死んだ体の中に存在し続けることは真の信仰の消滅を意味する。	真の信仰と信仰生活の残存者
---------------------	---	-----------------------------	--------------------------	------------------------------------	---------------

**フィラデルフィア:「リバイバルの時代」における反-教会の地位 1522年から1882年まで=360年)**

<b><u>フィラデルフィア</u></b>	かつて教会を象徴していたが、真の信者と対立し、完全に墮落し、完全に不敬虔な「サタンの会堂」となったこの死体のような教会から、真の信者は自らを切り離れた。	地上の教会の本来の組織体を篡奪(さんだつ)した偽の「会堂」が、今や真の教会に改革されたことを発見する。	反対派は、真の合法的な宗教、「ユダヤ人である」、「唯一の真の教会である」と主張するが、実際は「サタンの会堂」[「邪悪な組織」]である。	無し。真の信者は、神のみことばの真理を第一に考え、神はこれらの「働き」を尊ばれ、[伝道の知識、霊的成長の]豊かな収穫、「開かれた扉」を与えられた。	激しい迫害にもかかわらず、ニセ者たちも今までの立場を捨てて、フィラデルフィアの人々と共に神がおられることを認識し、悔い改め、彼らの足元で「礼拝」する者もいる。
------------------------	--	---	---	---	---

**ラオディキア 退廃の時代」における反-教会の状況 1882年から2026年まで=144年)**

<b><u>ラオディキア</u></b>	言及された特定のグループはない=偽ものが現在、改革派教会組織に浸透し、区別がつかないほど混在している	邪悪な「眠り病」は、真の「教会」を致命的なほどに損ない、徹底的に浸透してしまっている。	「教会」の中で、不信者が相対主義による無関心を広めてきた:すべてが「良い」ものだ。だから間違っているものは何もない(正しいものも何もない)	ペルガモ/ティアティラ/サルデイスのような(特定可能な)癌ではなく、急激な反応を避けるために、微妙に、そして段階的に教会内部から攻撃し、「受け入れてしまった者」に精神的麻痺をもたらした頽廢的な病気である。	現代の反-教会は、明確な挑戦の代わりに相対主義、弛んだ基準、神の言葉に対する無関心などを徐々に導入し、現代の教会をほとんど無気力(ぬるま湯)で効果的でないものになっている。
----------------------	--	---	---	--	--